

## 第3回 体育的活動領域部会 部会記録

### 1. 担当常任理事 挨拶

江戸川区立平井小学校 校長 山下 靖雄 先生

- ・分からないことはそのままにせず、質問したり調べたりして、分かるようにする。  
それが、研究。
- ・新学習指導要領に向けて、どう変化するのか。  
例えば、「主体的な学び」は？ 遊び自体は主体的。体活としてどう捉え、肉付けするか。

### 2. 資料作成

昨年度の部会資料の内容の改訂

#### 1 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

- ・「連れ出し」「夢中にさせる」という文言が教師の強い働きかけをイメージさせる。  
→「遊びたいという欲求を充足し、」にしては？  
子どもは元々、遊びたい欲求ある。それをどう呼び起こすかが体活。
- ・「夢中になって遊ぶ」では、協働的な面が表れない。  
→「夢中になって**仲間といっしょに遊ぶ**」にしては？

#### 2 研究の概要

##### (1) 研究の視点1 「三つの資質・能力の具体的な学習状況」についての考え方

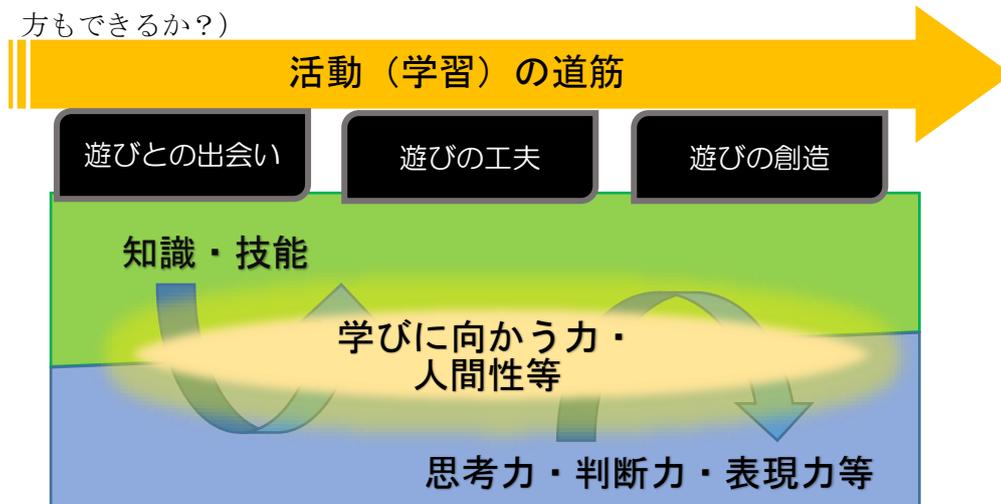
「知識及び技能」

- ・「知識」が先行しているような印象になるが・・・。  
→まず、遊びに出会わなくては遊びの機会が生まれないので、「知識」が先行になるのはしかたがない。
- ・「その結果、技能や体力も高まると捉えている」  
ねらいではないが、向上するという記述。矛盾しているのでは？  
→部会としてはねらいにしていなくても、体力向上を目的とした学校への提案にはなる。  
「技能」を「動き」に変えてはどうか。  
やってみて「できた！」を味わわせたい。

「思考力・判断力・表現力等」

- ・プレイリーダーをどう育むか。  
遊びの工夫の視点を与えたり、集団をまとめる方法を教えたりすることは、大事だと思う。

- ・体活では、学習過程が進むにつれて、「知識・技能」が減り、「思考力・判断力・表現力等」が増えていくと思う。両方をつなぐのが、「学びに向かう力・人間性等」（下図のような捉え方もできるか？）



- (2) 研究の視点2「三つの資質・能力の関係性を踏まえた学習過程の在り方」についての考え方  
関係性・・・階層性や順序性はないと指導要領に明記されている。

↓

三つの資質・能力をバランスよく身に付けるための学習過程を考える。  
 どういう道筋で三つの資質・能力を結びつけると児童がより身に付けやすくなるのかを考える。

どのような学習過程をイメージしていくか。

- ・学習過程が進むにつれて、技能が減るばかりではない。遊び方を覚えていく。
- ・プレイリーダーの活動の見取り、価値付けが大事。  
プレイリーダーに対する 振り返り→称賛 の指導のプロセスは、手立てとして入れるべき。
- ・「知識」は二つあると考えている。与えられる「インプットの知識」と与えられた知識を生かして主体的・協働的に活動したときに活用される「アウトプットの知識」  
→部会の遊び集で示している「遊びへの関わり方の工夫」と「遊びの行い方の工夫」に近い考えかも。

### 3 事務連絡

次回部会は7月17日（火）18時30分～ 千代田区立番町小学校（会場は予定）

7月17日（火）以降は

- 7月23日（月）18時30分～ 杉並区立桃井第三小学校
- 7月30日（月）18時30分～ 杉並区立桃井第三小学校
- 8月21日（火）15時～ 夏季合同研究会 リハーサル 江東区立豊洲西小学校
- 8月23日（水） 夏季合同研究会 江東区立豊洲西小学校